# NYを拠点に進化を加速させるエナジー・ギター

インタビュー・文：高梨学
*Text by Gaku Takanashi*
写真：西村達郎
*Photo by Tatsuro Nishimura*

ジャズの聖地NYとは言え、自分の望む演奏だけで生活することは至難のことだと言われている。そんな中、6年に渡りNYを拠点に活動を続けてきた1人の日本人ギタリストの活動に大きな変化が現われてきた。彼の才能がNYのみならず、北米で人気を呼んでいるのだ。日本でのCD発売ツアーを間近に控えた高免信喜にスポットを当ててみよう。

高免信喜

## 偶然訪れたチャンス

**Q：**今回はライヴ盤ですね。どうしてそうなったのですか？

**高免：**去年の6月にトリオで行ったカナダ・ツアーの最後がモントリオール・ジャズ祭だったんですが、そのステージだけピアノを入れたカルテットにしたんです。やはり以前からよくウェスのバンドのようにピアノを入れてやっていたこともあり、「これはやっぱり良いな」と感じました。また既にトリオでツアーをして熟れていたところに、ピアノが入ったことによるケミストリーも上手く作用したんだと思います。それで、何らかの形にして残したいなと考えていたところに、僕のMyspaceのページを見たイリジウム（NYのジャズ・クラブ）の方から連絡があり、2週間後にブッキング出来るということになったので、急遽ライヴ・レコーディングをすることを思い立ったんです。

**Q：**それは素晴らしいタイミングでしたね。

**高免：**そうですね、特にピアノの神田斉さんはバークリー時代の仲間なんですが、もう日本に戻ってしまっているので、また改めて集